

第6回 小田川付替事業 環境影響評価 技術検討委員会 (議事要旨)

開催日時：平成24年12月11日(火) 10:00～11:00

場 所：マービーふれあいセンター（倉敷市真備町）

出席委員：

内田 和子（元岡山大学大学院 社会文化科学研究科 教授）

奥島 雄一（倉敷市立自然史博物館 学芸員）

河原 長美（岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授）

笹岡 英司（元岡山大学大学院 環境学研究科 教授）

(欠席) 佐藤 國康（元川崎医科大学 教授）

(欠席) 西垣 誠（岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授）

波田 善夫（岡山理科大学 学長）

丸山 健司（日本野鳥の会 岡山県支部 支部長）

8名中 6名出席

議事要旨：

1. 委員会の成立について

- ・委員会規約第5条の2に基づき、出席者数が8名中6名であることから、委員会が成立していることを確認した。

2. スケジュールについて

- ・小田川付替事業環境影響評価手続きの概略スケジュールについて、事務局から説明があった。

3. 環境省レッドリスト改訂による追加種の予測・評価について

- ・環境省レッドリスト改訂により追加種の予測・評価結果について、事務局が説明を行い、以下の質疑及び助言がなされた。

【環境省レッドリスト改訂による追加種の予測・評価の結果】

委 員：植物の追加種は1種で、貧栄養の湿原周辺にある水辺の土の部分に生える植物である。予測地域には、貧栄養の湿原はない。一年草なのでたまたま確認されることはあるかもしれないが、継続的に生育している可能性はないので、植物の追加種が無いことについては問題ない。

委 員：鳥類の追加種は、主にチドリ類、シギ類であり、河口の干潟などを主として生息域としている。事業により生息環境が変化する区域は利用されていないと考えられるため、影響はないという結果に問題はない。

委員：昆虫類は大幅に環境省レッドリスト種が増加した。昆虫類の場合は、他の分類群とはニュアンスが異なり、予測地域にいないとは言い切れない種類が多いと考える。しかし、事務局の説明のとおり、十分な調査を行っているが確認されていないことから、現時点では予測対象種から除外するという整理で問題ない。

委員：環境省レッドリストの改訂された分類群の中に、「底生動物」という名称がないが、環境影響評価では、全ての生物分類群を対象としていると考えてよいか。

委員：例えば、一般生態が明らかにされていないバクテリアや菌類等は、評価の対象になり得ない分類群のため、環境影響評価の対象に入っていない。基本的には、一般生態が明らかにされており、事業の影響に対して予測評価が可能なものが対象である。

委員：環境影響評価後に、重要な種の選定基準の改訂により追加された種があった場合には、どう対応するのか。

事務局：改訂された時点で適切に対応することを考えている。

委員：岡山県レッドデータブックも同様に今後改訂される。種の分布実態が分かってレッドデータから外れる種もあろうが、基本的にはレッドデータ種は増える傾向になると考えられる。事業中においてはアフターケアが必要な場合もあるが、どこかで区切りをつけることも必要である。環境影響評価においては、重要な動植物の生息・生育環境を中心に残していくことによって、その他の未知の動植物が生息している可能性がある場が保全されるという考え方が妥当ではないかと考える。

【まとめ】

委員長：環境省レッドリスト改訂による追加種の予測・評価の結果を確認の上、委員会の指摘事項を踏まえ、この結論により準備書を作成していくということです承されるか。

委員：了承する。

以 上